

Ⅲ. 河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

1 令和元年度（2019年度）河川工作物 AP 会議の開催状況

以下とおり、会議及びミッション招聘を実施しました。

- (1) 第1回会議（令和元年7月16日（火）～7月17日（水）斜里町）
現地検討（ルシャ川治山ダム改良・河床路実証試験）及び室内会議を行いました。
- (2) IUCN 諮問ミッション（令和元年9月24日（火）～25日（水）斜里町）
IUCN/SSG（サケ科魚類専門家グループ）ピート・ランド氏を招聘し、ルシャ川ダムの改良及び河床路の現地視察を実施するとともに意見交換を行いました。
- (3) 第2回会議（令和2年1月28日（火）札幌市）
IUCN ミッション招聘の実施報告、長期モニタリング調査報告、ルシャ川の取組（ダム改良及び河床路）、第二次検討ダムの改良について議論を行いました。

2 第43回世界遺産委員会決議の対応について

1の（2）のとおりです。

3 長期モニタリングについて

(1) 長期モニタリング実施計画に基づく調査

- ① 「淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況」
37河川での調査が昨年度より2巡目となり、今年度は8河川の魚類・物理環境調査を実施。また、今年度より半島先端部の5河川の水温計測を追加しました。
昨年度から実施している環境DNA調査を、今後も継続実施していく予定です。
- ② 「河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数」（隔年実施）
ルシャ川、テップンベツ川、ルサ川について、カラフトマスの遡上数と産卵床等について8月から10月にかけて実施しました。

(2) 長期モニタリング計画の評価項目の評価

評価項目の評価作業の進め方等についての説明が環境省からあり、委員からは特段意見はありませんでした。

4 ルシャ川の取組について

(1) ルシャ川ダムの改良

今年度からダムの改良工事に着手し、第2ダムと第3ダムの幅各40mを切下げ（H=0.8m）、第1ダムの下流部の落差対策を実施しました。

来年度の工事は、第3ダム幅40mの地中部までの撤去（H=1.7m）を予定しています。

(2) ルシャ川河床路の状況

降雨による増水時に確認した実証試験では、流水による路体への影響はなかったものの、路盤材の流出による凹凸の発生で走行性が劣ることが確認されたことから、来年度にはこれを改善すべく凹凸部に20cm内外の石を練り込みで組んで間詰めする改良を実施する予定です。

引き続き河床路の耐久性、走行性及び魚類の遡上環境等をモニタリングするため、調査を実施します。

5 第2次検討ダムについて

(1) オッカバケ川ダム改良

2基のダムのうち上流側の2号ダムについて、昨年度に引き続き人力作業により改良（H=1.5mの切下げ）を実施しました。来年度は、切下げの最後となる改良（H=1.2mの切下げ）と併せて、引き続き河川環境等の定点観測を実施します。

また、下流側の1号ダムの改良を検討するにあたり、「河川変動予測ソフト（iRIC）」を活用したシミュレーションを行い、渓床の変動等による保全対象への影響を確認します。

(2) イワウベツ川ダム改良

改良方針検討のため、溪流の縦横断測量及び荒廃状況調査、保全対象の状況調査を実施しました。改良対象のダムに老朽化が見られることから、堤体の安定度、強度等を把握するための調査を実施し、改良に向けた方針を検討します。

6 今後の予定

令和2年度は河川工作物アドバイザー会議を2回開催する予定です。